「ああ、気づいてたんだ。何で昼ご飯のとき、いつも教室にいないんだろうって知りたかっただけ」

「私は一人でいるのが好きなんです。それに私が教室にいても、他の人の邪魔になるだけだから」

「そんなことないよ。私みたいに君の良さを分かる人が必ずいるよ！」

ミスエンジェルはセレナを励ますように言った。

　セレナは昼食の間、とてもぎこちなく感じた。ミスエンジェルは暖かくて寛大(かんだい)だが、背すじを凍(こお)らせるような何かも感じさせる。二